

電動車椅子サッカーW杯 9日開幕

ネット中継で 強カアシスト

世界七カ国・地域の電動車椅子（いす）サッカー代表チームが覇を競う第二回FIPFAワールドカップ2007（電動車椅子サッカーW杯）が九日から十三日まで、東京で開かれる。重度障害のある選手たちが世界につながる夢を実現しようと開催にこぎつけたこの大会で、金沢市のメンバーが中心となって運営するNPO法人STANDがインターネット中継の大役を任された。メンバーは「選手たちのプレーに伝え、電動車椅子サッカーの妙味を伝えたい」と張り切っている。（報道部・小島哲男）

STANDは二〇〇五年十二月に設立。また任意のボランティア団体だった〇三年から毎年秋、名古屋や大阪市で開かれてきた日本電動車椅子サッカー選手権などでネット中継を担ってきた。

きっかけは、金沢市の選手たちの仲間から寄せられた「体が不自由で会場には行けないが、応援したい」という声だった。テレビ

金沢のNPO法人

■電動車椅子サッカー 重度の障害者たちのために考案されたスポーツ。1チーム4人制で、バスケットボールコートを使って行う。電動車椅子の先端に取り付けたフットガードや車椅子の側面で、直径約33センチのボールを操る。W杯に出場する日本チームのアドバイザーには元サッカー日本代表監督の岡田武史氏がなっている。

「普及活動、応援したい」

電話機能付きの携帯電話とインターネットを組み合わせた機動的なシステムを考案。モバイルと中継をもとに、メンバーは「モバチュウ」と名付けた。今年四月、愛知県大府市で開かれたW杯の日本代表選考会では、選手の仲間やFIPFA関係者からのメッセージも配信し、期間中のアクセスは二千五百を超えた。W杯に出場するのは日本、米国、フランス、イングランド、ベルギー、ポルトガル、デンマークの七チーム。九日の開会式から三日の決勝戦まで全二十三試合、STANDのメンバーと金沢星稷大学の学生ボランティアら総勢約三十人が繰り出し、監督、選手のインタビューやベンチ裏リポートも絡めて生中継する。



テレビ電話機能付き携帯電話を使い試合の様相を中継したW杯の日本代表選考会＝4月、愛知県大府市で（STAND提供）

場するので観戦に行けないけど、中継を見て日本チームを応援したい」と話す。本番に向けてメンバーは今、こじこじ統一された国際ルールの勉強をしたり、各国から選手たちへの動画メッセージを募集したりと準備に余念がない。STANDの伊藤数子副理事長（金沢市）は「選手の皆さんは、W杯の開催によって競技がより広い世界へと広がることも、競技普及活動を通して社会に貢献できることを願っている。わたしたちはネット中継で少しでもそれを応援したい」と意欲を示している。公式中継ホームページのアドレスは<http://www.i-project.jp/stand/mobachoo/w-cup/>。運営費を確保するため、企業などの支援も求めている。問い合わせはSTAND事務局へ。電話076(267)0099へ。